

光の果て

真夏あむ

おっせえよここまで来るまで、待ってたよって泣きながら笑うぼくのこときぐるいだとか言って突き放さないあなたが好きで。

待ってたんだよ、ここで、ずうっと。

雨の中のバス停、いるはずのない幻が呆然と立っている。どんぐりがころころと零れる、まるで叶わなかった夢のように。

おっせえよ、ばか、おっせえよばーか、初めて会った時から感じてたんだわ。

わからないやつは死ねばいいマインドでここまでやってきたよ。

秘密にしてくれる？ このこと。

ねえ、今、繋がってる。

気づいて。

きみの鼓動が、ぼくからの「気づいて」のサイン。

ねえ、ずっとここにいた。

そして、これからも。

永遠に続いていく旅の最中で、一瞬でもいい、出逢えてよかった。

掴めないことに落胆しないで、今のこの温度を感じて。

ここを、越そう。

ふたりならできるって手を握った、その力がどんなに弱々しくても。

ここを、越そう。

光のその果てで、そしてまた逢おう。

約束。

今のこと、全部忘れてね。